

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
北海道スプリントカップ	2018/6/7	JpnIII	門別	1200m	ハイペース	良	コース適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	シングンヴィグラス	牡5	56	黒澤	サウスヴィグラス	ミスプロ系	マルゼンスキー	ノーザン系	D	C	C	D	D	D		
	2	ナリユキマカセ	牡5	56	松井	オレハマッテルゼ	サンデー系	ジャングルポケット	ナスルーラ系	D	C	B	D	C	C		
2	3	デーオーヘリオス	牡6	56	浜中	Fusaichi Pegasus	ミスプロ系	Afternoon Deelites	ダマスカス系	A	B	B	B	B	B	△1	
	4	ミッキーヘネシー	牡9	56	阿部龍	ハーツクライ	サンデー系	Hennessy	ミスプロ系	D	B	D	D	D	D		
3	5	ラブバレット	牡7	56	山本聡	ノボジャック	ノーザン系	バブルガムフェロー	サンデー系	A	A	B	B	A	B	▲	
	6	サトノプリンシパル	セ8	56	服部	Bernardini	ナスルーラ系	Nureyev	ノーザン系	D	B	B	B	C	C		
4	7	コールサインゼロ	牡6	56	伊藤千	カネヒキリ	サンデー系	カコイシーズ	アリダー系	D	D	C	B	C	C		
	8	カツゲキライデン	牡7	56	桑村	ノボジャック	ノーザン系	ホスピタリティ	ハイベリオン系	D	B	B	B	C	C		
5	9	ニシケンモノノフ	牡7	59	横山典	メイショウボーラー	ヘイロー系	アフリート	ミスプロ系	A	A	A	B	A	B	○	
	10	スノードラゴン	牡10	59	五十嵐	アドマイヤコジーン	ナスルーラ系	タヤスツヨシ	サンデー系	B	B	A	A	A	A	◎	
6	11	トドイワガーデン	牡5	56	阪野	サウスヴィグラス	ミスプロ系	フジキセキ	サンデー系	D	C	C	C	C	C		
	12	コスタアレグレ	牡8	56	倉兼	シニスターミニスター	ナスルーラ系	Miswaki	ミスプロ系	C	B	B	C	C	B	△3	
7	13	ディナスティア	牝6	54	山本咲	ダイワメジャー	サンデー系	アフリート	ミスプロ系	D	C	B	C	C	C		
	14	コパノマイケル	牡5	56	宮崎	ゴールドアリュール	サンデー系	ウォーニング	ミスプロ系	B	B	B	C	B	B	△2	
8	15	モリデンシーザー	牝6	56	井上	ファスリエフ	ノーザン系	シャーディー	ノーザン系	D	B	C	D	C	C		
	16	メイショウノーベル	牡9	56	岩橋	スペシャルウィーク	サンデー系	Miswaki	ミスプロ系	D	B	C	D	C	C		

隊列図	見解	ラップタイム
ハイペース	<p>門別は非常にコース適性が問われるコース。いい例がスーパーステーションだろう。3歳時に本格化して以降、連勝街道を歩んでいたが、南関東に移籍すると、報知オールスターカップ、バレンタイン賞と2戦続けて戦意喪失気味の大敗。陣営もこのままではダメだと踏んだのか、南関東に見切りをつけて門別に再転入。すると南関東の大敗が嘘だったかのようにコスモバレーク記念→赤レンガ記念と2連勝。ドラゴンエア、オヤコダカ、ステージインパクトに完勝し、事実上の門別中距離路線の最強馬になった。スーパーステーションの例は極端だとしても、門別は砂厚が12cmと深く、非常にパワーを必要とされるので、コースの得手、不得手が出やすいのだろう。過去の北海道スプリントカップを見ても、ミリオンディスク、セレスハント、スノードラゴン、ダノンレジェンドとリピーターが明らかに多い。現在のダートグレード路線は短距離も中距離も主役馬不在で、レースが行われるたびに着順がコロコロと変わる現状。今年の北海道スプリントカップの出走馬を見ても、上位勢の能力は拮抗しており、カギを握るのはやはりコース適性だろう。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はスノードラゴンが今年も好走する。(以下省略)</p>	<p>ラップタイム</p> <p>回顧</p> <p>次走狙い馬</p>

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	シングンヴィグラス		前走はディナスティアーに3.3秒差をつけられての12着と大敗。南関東のB2でアタマ打ちになっての移籍で、ダートグレードでは荷が重いだらう。		
	2	ナリュキマカセ		連勝中だが、近2走の走破時計は1分14秒台。北海道スプリントカップは良馬場なら1分12秒前後で走れないと上位争いは難しいレース。持ち時計的にダートグレードのペースにはついていけないだらう。		
2	3	デーオーヘリオス	△1	ダートグレード初挑戦も、現状の低レベルなダートグレード路線ならいきなり通用していいはず。3走前のコーラルステークスではヤマニンアンプリメ（マリーンカップ3着）、サクセスエナジー（かきつばた記念&さきたま杯1着）に先着しており、本馬もダートグレードでヒクを取ることはないだらう。		
	4	ミッキーヘネシー		戦績的にマイルがベストの馬。昨年の東京盃では勝ち馬キタサンミカヅキから2.0秒も離されての12着と大敗している。1200mのダートグレードでは追走で精いっぱいだらう。		
3	5	ラブバレット	▲	前走東京スプリントは外枠で流れに乗れなかったが、勝ち馬グレイスフルリープから0.6秒差の6着に健闘。前々で運べたければ…と思わせる内容で、別定のダートグレードでもJRA勢と互角に走れることを証明した。門別1200mは初めてだが、力を発揮しやすい条件のはずだ。		
	6	サトノプリンシパル		近2走はスムーズな先行策を打てたのが大きな好走要因。二の脚はますますもゲート力がないので、今回は揉まれる競馬が濃厚。血統的にもこれまでのレースぶりを見ても、自分の型に持ち込めないと脆く、ここは崩れる可能性が高いだらう。人気をそこそこ集めるなら買う理由はない。		
4	7	コールサインゼロ		北海道スプリントカップは3年連続の出走で、過去2回は16年9着、17年9着。近走は地元馬相手でも苦戦続き。ピークを明らかに過ぎており、回ってくるだけで終わるだらう。		
	8	カツゲキライデン		前走キンシャサノキセキ・プレミアムは1分13秒7の走破時計。北海道スプリントカップは良馬場なら1分12秒前後で走れないと上位争いは難しいレース。ダートグレードではさすがに荷が重いだらう。		
5	9	ニシケンモノノフ	○	昨年の北海道スプリントカップでは後続を寄せ付けずのレコード勝ち。馬場の恩恵があったとはいえ、門別ダートへの適性は極めて高い。今年は内のラブバレットを見る形での2、3番手になりそうだが、逃げないとダメなタイプではなく、前々で流れに乗れば、自ずと結果はついてくるはずだ。		
	10	スノードラゴン	◎	16年と17年は不良馬場で門別ダートらしくないスピード勝負。例年、1分11~12秒台での決着が多い中、過去2年は1分9秒台で決着しており、この馬が力を発揮できる馬場ではなかった。それでも3着に追い上げたのは、門別ダートへの適性の高さゆえだらう。良の力勝負なら前年以上の着順も。		
6	11	トドイワガーデン		地元のA1でも上位争いが難しい現状。ダートグレードでは荷が重い。		
	12	コスタアレグレ	△3	前走黒船賞で大敗したが、実績のない1400m、自滅したグレイスフルリープを追いかけたの失速でノーカウントの一戦と捉えていいだらう。今回は実績のあるダート1200mで、この枠ならストレスなく先行できそう。巻き返す余地はある。		
7	13	ディナスティアー		2、3走前はサトノプリンシパルに完敗している馬。JRA時代の実績（JRAでは500万下2着が最高着順。JRAでは未勝利。）を考えても苦戦濃厚だらう。		
	14	コパノマイケル	△2	前走黒船賞で大敗したが、実績のない1400m、自滅したグレイスフルリープを追いかけたの失速でノーカウントの一戦と捉えていいだらう。今回は実績のあるダート1200mで、この枠ならストレスなく先行できそう。巻き返す余地はある。		
8	15	モリデンシーザー		南関東のB2から北海道に転厩。初戦のキンシャサノキセキ・プレミアムでは4着。地元馬同士ならそれなりに戦えそうだが、ダートグレードではさすがに荷が重い。		
	16	メイショウノーベル		JRAの元オープン馬だが、ピークを過ぎてからの移籍。昨年の北海道スプリントカップでは勝ち馬ニシケンモノノフから1.9秒差の6着。今年も前年の勝ち馬ニシケンモノノフ、同3着スノードラゴンが出走しており、上位争いは難しいだらう。		